



この事業は  
「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」  
が推奨する事業として認定を受けています。



2015年10月23日

労働金庫連合会

## 「ろうきん森の学校」 岐阜地区開校式が開催されました

「森を育む」、「人を育む」、「森で遊ぶ」を柱に NPO 法人や地域とともに事業を展開している「ろうきん森の学校」。2015 年度から新たに 2 地区が加わり、拠点は全国で計 5 地区となりました。

新たに加わった 2 地区のうち、5 月 17 日に開校した新潟地区に続いて、岐阜地区の開校式が 10 月 17 日に開催されました。

岐阜地区は、岐阜県が「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して整備を推進している「環境保全モデル林」第 1 号の「古城山環境モデル林」および「新田の森」を主たる活動エリアとして、豊かな森の恵みを活用したプログラムを実践しています。新幹線岐阜羽島駅から車で 45 分ほどの「古城山環境モデル林」に「ろうきん森の学校」の看板が設置され、そこに設けられた会場で開校式が行われました。

冒頭、この地区を担当する NPO 法人グリーンウッドワーク協会の小野敦理事長から、将来、子供たちが放課後に集まってくるような場所になるよう体験学習の場を整えたいと挨拶がありました。

続いて、本会中江公人理事長が森づくり、人づくりが地域づくりにつながるよう〈ろうきん〉としてしっかり支援していきたいと抱負を述べ、さらに全国事務局を担う NPO 法人ホールアース研究所の大武圭介理事長が、ろうきん森の学校は 10 年間の支援が約束され、継続して活動できるという利点があり、木を活用するという岐阜地区の特徴が他の地域に発信されていくよう協力してほしいと挨拶がありました。

引き続き開催された交流会では、東海労働金庫の三尾禎一専務理事が乾杯の音頭、岐阜県林政部恵みの森づくり推進課・平井實課長および美濃市産業振興部産業課・成瀬孝子課長に祝辞をいただきました。

その場では、地元のボランティアクラブおよび親交会の皆さまが地元で採れた野菜やアユを調理してもらってくださり、また、昼食後はグリーンウッドワークのプログラム体験として切ったばかりの木から指輪作成が行われ、大いに盛り上がりました。

地元の方々が多数ボランティアとして参加されており、岐阜地区の今後の活動が大いに期待されます。



ろうきん森の学校の活動フィールドで  
関係者の記念撮影



除幕式